

加賀野菜

せり

栽培マニュアル



【せり】

科名 セリ科

原産地 日本

産地 弓取地区

栽培の歴史

江戸時代には、田に引く水を溜めておく井田に自生していた。明治時代の初期から、諸江で本格的に栽培されるようになり、昭和30年〜50年代が最も盛んで、県外市場にも広く出荷されていた。

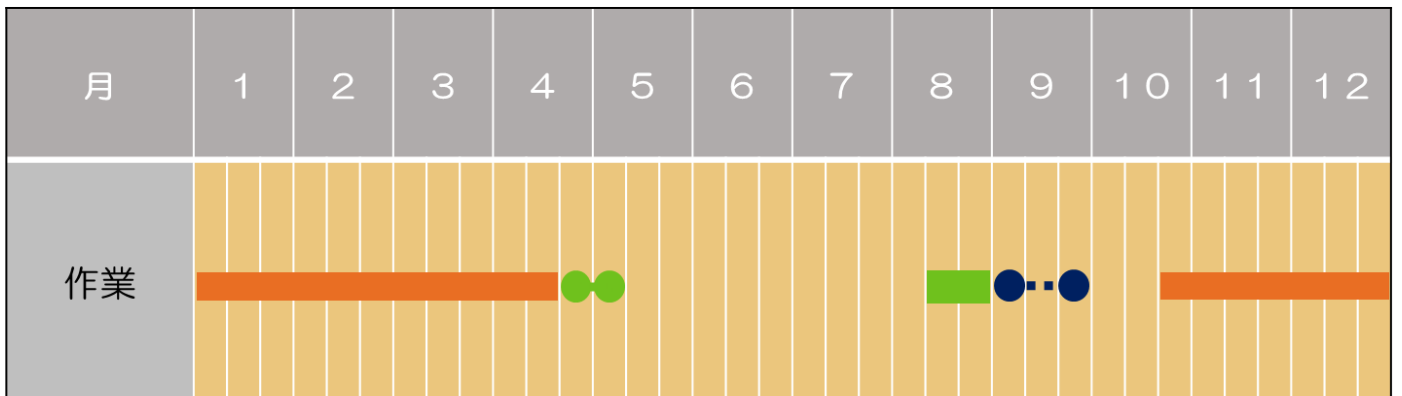
特性等

好湿性多年草で、春の七草の一種。気象条件に対し、きわめて広い適応性を持つ。耐寒性は強いが10度以下では伸長が止まる。耐寒性は強いが、強酸性では生育が劣る。腐食に富む肥沃な土壌で、清水が絶えず湧き出しているか、流水している場所が適している。



栽培カレンダー

- : 親株植付け
- : 種せり植付け
- : ランナー収穫
- : 収穫



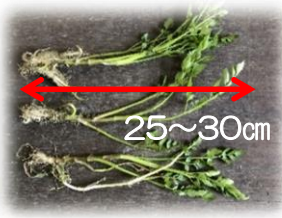
1 親株植付け

【苗圃の準備】

- ・ 植付けの2週間前までに基肥を全層に施し、荒起こし、畦塗りを行う。
- ・ 植付けの3〜4日前に代かきを行い、水を張っておく。
- ・ 本田の定植面積が10aの場合、苗圃は約200㎡必要である。

【親株の植付け】

- ・ 4月下旬〜5月上旬に、病害虫に感染していない健全な株を親株に選び、5月上旬までに苗圃に植付ける。植付けが遅れると、ラナーの発生が悪くなるため注意する。
- ・ 株間、条間は15cmとする。株間が広いと、雑草が繁茂する恐れがある。



親株は短い方が作業効率がよいため、25〜30cmの株を使用する



生長点（分岐部）が土につかない程度に田植えと同じ要領で植付ける



2 植付け後の管理

- ・ 株が活着するまで（植付け後10日間が目安）は水深を3〜4cmに保ち、水温を高めて発根を促す。
- ・ 梅雨明けまでは、根元が乾かない程度に水を張る。
- ・ 梅雨明け後は、基本的には水管理は行わないが、暑い日が続く場合は、数日に1回の割合であて流しする。
- ・ 追肥は8月中旬頃までに終わらせる。

植付けのポイント



発泡スチロールの蓋の上に、苗が入った籠を乗せると作業がしやすい。

施肥設計（例）

(kg/200m²)

肥料名	基肥	追肥 (3回)	成分量
固形30号	10	2×3回	N :1.6 P ₂ O ₅ :1.6 K ₂ O :1.6

収穫のポイント

ランナーは根をつけたまま抜き取るが、鎌などで根から刈取る方法もある。



刈る



3 ランナーの収穫 発根

・ランナーを抜きやすくするため、収穫の2日前に水深20cmを目安に湛水する。
 ・植付けの1週間前に、ランナーを抜き取り、60cm位の高さに積み上げ、遮光ネットを被せる。(下部写真参照)



雑草に種ができる前に除草する



雑草の種を落とさないように注意する

・7月上旬頃から8月下旬にかけて3回程度除草を行う。(登録農薬が少ないため、手取り除草が基本)
 ・土が柔らかいうちに苗圃に入ると、根が傷むため、除草開始は7月上旬以降とする。



⑥風で飛ばないように網を掛ける



約60cm



①ランナーを刈り取る



⑦約7日間で根が1cm程度伸長する(種ゼリ)



④ビニールを掛け直接風が当たるのを避ける



②運ぶ

メモ

昔は「むしろ」を使っていたが、現在は省力化のため遮光ネットを使用している。



⑤遮光ネットを被せる



③積み上げる

【手順】

4 本田の準備

- ・ 植付けの1週間前までに、基肥を全層に施し、荒起こし、畦塗りを行う。
- ・ 植付けの3〜4日前に代かきを行い、水を張っておく。

5 種ゼリ植付け

- ・ 出荷時期を分散させるため、9月上旬から10日程の間隔で3回に分けて植え付ける。
- ・ 種ゼリを長さ10 cm程度に切断し、水深2 cm程度に湛水した本田に均一にばらまく。

6 植付け後の管理

- ・ 種ゼリの移動を防ぐため、植付け後は、地面を乾かさないう程度（1〜2 cm）の浅水にする。
- ・ 植付けから4〜5日で根が活着し、10日程で芽が緑色になる。
- ・ 倒伏防止のため、草丈に合わせて水深を調節する。
- ・ 寒害防止のため、寒い日は、葉先だけが出る程度の深水にし、夜間は地下水をかけ流しにする。
- ・ 品質を高めるため、10月中旬からトンネルの準備を始め、11月中旬頃から寒冷紗を張る。
- ・ 1月に入ったら、寒冷紗の上からビニールを張る。ビニールを張る前に必ず追肥する。



隙間がないよう、均一にばらまく



切断のポイント

「押し切り機」を使い種ゼリを切断する。



施肥設計（例）

(kg/10a)

肥料名	基肥	追肥 (2回)	成分量
固形30号	200	25×2回	N :25.0 P ₂ O ₅ :25.0 K ₂ O :25.0



トンネルは幅2m、通路は60cm〜1mとし、通路から収穫を行う



寒冷紗を張る



寒冷紗の上からビニールを張る

7 収穫調整出荷

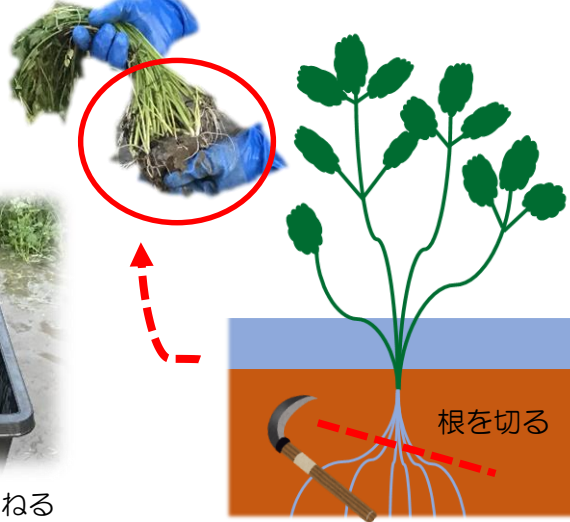
- ・ 収穫は10月下旬頃から行う。
- ・ 収穫の10日程前から、水深15〜20cm程度に湛水する。
- ・ 草丈が40cm程度に伸びたものを収穫する。
- ・ 鎌などで根を切り、土を洗い流す。1束100gに束ね、水洗いし、1箱に30束を詰めて出荷する。



②土を洗い流す



①鎌などで根を切る



③せりの向きを揃えて重ねる



⑩出荷箱にビニールを敷き、1箱に30束を詰める。出荷まで、約8℃の冷蔵庫で保管する。



⑦水洗いする



④納屋へ運び選別する



⑧コンテナに並べる



⑤新芽が浮いてこないよう手で数回「なでる」

保管のポイント



箱詰めが終わったら、出荷箱を逆さまにして保管・出荷する
※開封時に新芽の浮きを目立たなくするため



⑨コンテナを縦にして乾かす



⑥1束100gに束ね、根を切りそろえる

8 病害虫防除

【防除】

- ・ 日常の収穫や管理と併せ、生育状況等を観察し、病害虫の早期発見と初期防除に努める。
- ・ 病害虫は、年によって程度に差はあるが、繰り返し発生するので、発生時期や防除実績を日誌等に記録し、翌年以降の防除に活かす。
- ・ 農薬は、「野菜類」や、「せり科野菜」の登録があるものを使用する。

・ 農薬の使用にあたっては、最新情報を入力するとともに、ラベルの記載内容を必ず確認して使用する。

・ 農薬の最新情報は、農林水産省「農薬コーナー」を参照。

URL: <http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>

【主な害虫】

- ・ アブラムシ、アザミウマ、ハモグリバエが付くため、早めに防除する。



【キアゲハ】



【エダシャクガ】

【主な雑草】



【ミズハコベ】



【タマガヤツリ】



【藻類】



【コナギ】

加賀野菜「せり」栽培マニュアル
発行 令和2年3月
発行元 金沢市
監修 堀 弘光(農の匠)
編集 金沢市農業センター
金沢市下安原町東1477
電話 (076)249-2744
FAX (076)249-4470

